

手柄山温室植物園だより  
シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

#### 40. チカラシバ（イネ科チカラシバ属）

*Pennisetum alopecuroides* (L.) Spreng.

2015年10月

日当たりのよい道ばたや畦畔などに生育する大きな株になる多年草です。葉は硬く線形でやや丸まり長さ30~60cm、多くの根生葉と稈につく葉があります。稈は多数そう生し分枝せず長さ30~80cm、頂部に円柱形で多数の小穂をつけたブラシ状花穂を1個つけ、長さ10~15cm、芒を含めた径は4~5cmで暗紫色です。小穂は披針形で長さ7mmほど、多くの芒をもった総苞に包まれ、脱落は同時におこります。分布は北海道西南部、本州、四国、九州、沖縄、東南アジアで、姫路市においては各地で普通に見られます。似た種類がないのでわかりやすい植物です。和名の力芝はしっかりした株で引き抜くことが困難なところから来ているといわれます。芒は動物の毛や衣類に容易に引っ掛かりやすく、動物付着散布、いわゆる引っ付き虫として種子を散布する繁殖戦略を行う植物です。



チカラシバ



芒に朝露が付着した花穂